

IV. 吹田市のまちづくりに関する大学生アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートでは声が拾いにくい世代（主に 20 代）からの意見把握を目的に、市内 2 大学において行った本市企画財政室の講義の際に、その受講生を対象にアンケートを実施した。

(2) 調査日

令和 4 年（2022 年）12 月 5 日（月）、13 日（火）

(3) 調査方法

ア Web アンケート回答用の URL 及び QR コードを受講生に周知し、Web 回答による回収を行った。（関西大学）

イ 大学内のシステムを利用し、アンケートの周知、回収を行った。（大阪学院大学）

(4) 調査対象

関西大学及び大阪学院大学の学生

（両大学で行った本市企画財政室による講義の受講生）

(5) 調査項目

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

(6) 回答結果

有効回答数 178 件

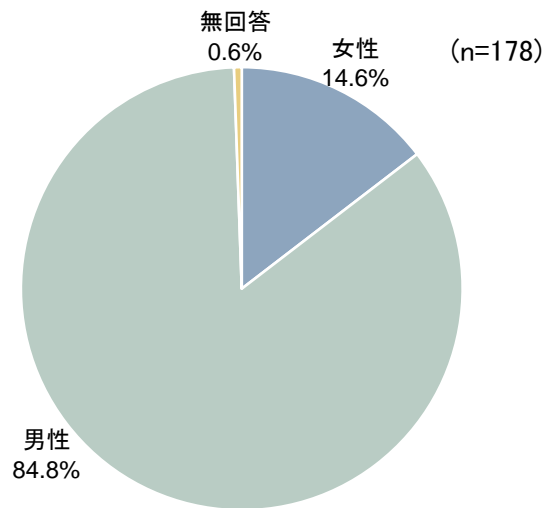
2. 調査結果

(1) 回答者の属性

ア 性別

回答者の性別で見ると、「男性」(84.8%)の方が、「女性」(14.6%)よりも回答割合が多い。

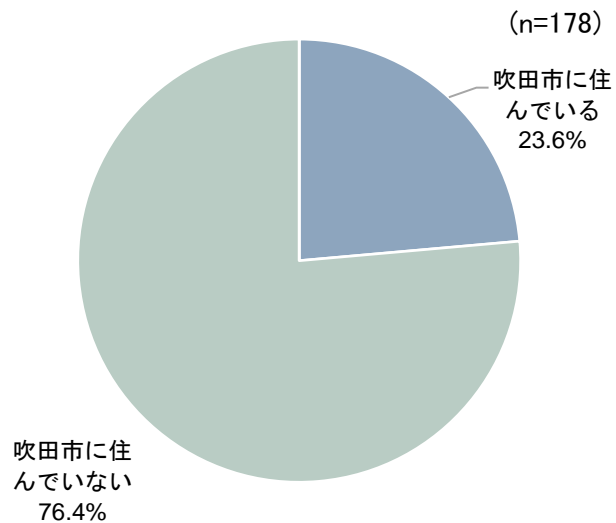
図表 IV-1 大学生アンケート回答者の性別割合



イ 居住状況

回答者のうち、「吹田市に住んでいない人」が76.4%、「住んでいる人」は23.6%である。

図表 IV-2 大学生アンケート回答者の居住状況



(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

吹田市が定める 19 のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち」「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」（85.4%）の割合が最も高く、次に「6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち」「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」（84.8%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち」（73.0%）、「4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち」（74.7%）である。

図表 IV-3 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(大学生アンケート)

